



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 25 年 8 月 2 日(金)
観光資源活用トータルプラン成果報告会 編

8月2日(金)、東京・半蔵門で3年間の高速道路交流推進財団(現・(財)国土計画協会)の補助事業支援期間満了に伴う実績報告会に参加しました。もちろん、説明は渡辺先生で私はただの同行者です。3年前の補助金申請プレゼンにも同席しましたが、実際の活動にはほとんど関わらず、罪滅ぼしのつもりで参加しました。

観光地でもない能代地域が補助金対象団体に選ばれたのは未だに不思議ですが、審査委員長が、既に有名な観光地よりハンデを抱えたこの地域が3年間の活動でどう化けるかにかけてくれたようです。事務局長は、採択当初からずっと心配されていたそうです。

さて、報告は渡辺先生が事業目的や構成員、さまざまなプロジェクトを審査員に分かりやすく説明してくれました。しかも持ち時間15分きっかりで終了。さすが、大学の先生と改めて感心しました。

事業成果だけでなく、ネットワークや常盤中学校、代表の能登さんの受賞も披露されました。能代市が観光を推進する姿勢を明確にしたことも補足させていただきました。

白神ネットワークの活動が様々な人や団体とつながり、各イベント内容が充実し、前向きな団体が現れてきたことは大きな成果だと思っています。ただ、構成団体の中で活動縮小や休止、解散など、ネットワークの今後に大きな問題も出てきました。今年は大きな補助金もなく、いつまで渡辺先生が事務局機能を担えるかという問題もあります。これまでの総括とともに、今後の方向性を議論すべき時かもしれません。

ほかにも北海道ガーデン街道と信州・桃源郷街道の報告がありました。ともに成功事例と言われるだけあり、ユニークで多くの交流人口を達成していました。また、どちらも民間が主体で、行政は後から加えてもらっているという印象です。ふと、大館市の陽気な母さんの店を思い出しました。やる気のある人たちが真剣になると、いろいろな可能性が出てくるように思います。

報告会の後には審査員や報告者、それに現在、補助金を受給している団体も含めた懇親会が開かれました。通常はすぐにお開きになるのですが、何と2次会は東京駅まで移動しての開催でした。北海道と信州の代表者の間の席となり、それぞれの方のお話を伺えたことは大きな成果でした。お二人とも気負うこともなく、派手なパフォーマンスや大げさな自慢話もせず、しかし、その活動量の多さや人脈の広さ、きちんとした考え等、やはり人間性に負うところも大きいと改めて感じました。機会があれば、今回知り合った団体への訪問を実現できればと思いました。

ネットワークを外から眺めたこの3年間、多くの活動が行われ、地域づくりに関係する講師との勉強会も重ね、それぞれに成長したと感じています。今後は、お互いのネットワークをさらに活用し、前向きな人との協調関係を強め、確実に前に進んでいけると信じています。行政は黒子で十分と感じた旅でした。

文：佐々木 松夫



3年前、表彰式会場だったところでの報告会。審査委員6名が最前列に並ぶ前でのプレゼン。どんな質問やコメントがあるのかドキドキです。



NWには十分過ぎる支援金も北海道ガーデン街道には足りなかったのですが、参加団体が更に増え、スイーツ街道もできるなど飛躍的な成果がでていました。



現在最終年度の信州・桃源郷街道の宿泊しない農村生活体験は、農家民泊が進展しない地域の参考になることが沢山。

3年前も松夫さんと来たなあ～と歳月の早さを感じながら、懐かしい気持ちで会場に入りました。

NWで提案したのは内容盛りだくさんのプランでしたので、5プロジェクトごとに当初計画と成果をなるべく数字で示して報告し、いただいた支援金によって以下の成果があったとまとめました。①今後の活動にも必須なスギ機材が充実②道の駅やPAに広報基盤ができた③イベント等で連携団体が増加④講師招聘や視察による学習と実践効果

橋本委員からは3年前の北海道は巡航速度に向け高度をあげていた状態だったが定常飛行に入った。能代は離陸に向け助走していたが、いよいよ飛び立って高度をあげている。それぞれに成果があって良かったとのコメントをいただきました。溝尾審査委員長は、現地もみて大変心配していたが成果があって本当に良かったととても喜んで下さいました。

お世話になった財団事務局の田中武昭氏には心より御礼を申し上げます。

渡辺 千明